

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、  
 ご利用いただきたくご案内いたします。  
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を  
 重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ  
 どよろしくお願い申し上げます。

敬白

### 記

■実施日      2018年7月20日(金) ご依頼分より

### ■新規項目内容一覧

| 項目<br>コード | 検査項目<br>JLAC10                | 検体量<br>(mL) | 容器                     | 保存<br>(安定性) | 所要<br>日数 | 実施料<br>判断料 | 検査<br>方法 | 基準値<br>(単位)                | 備考 |
|-----------|-------------------------------|-------------|------------------------|-------------|----------|------------|----------|----------------------------|----|
| 2987 1    | オートタキシン<br>5C240-0000-023-023 | 血清<br>0.5   | S09<br>↓<br>A00<br>(X) | 冷蔵<br>(21日) | 2~4      | 194<br>※3  | FEIA     | 判定基準<br>次頁参照<br><br>(mg/L) | &ヨ |

※3：生化学的検査（I）判断料

## ● オートタキシン

初期の肝線維化を判別できる新しい血中マーカーです。

オートタキシン (ATX) はリン脂質代謝酵素であり、リゾホスファチジルコリン (LPC) を分解し、臓器の線維化を引き起こすことが知られているリゾホスファチジン酸 (LPA) を産生します。線維化などの肝障害によりATXの代謝阻害が起こることでATXが血中に滞留し、さらにLPAが上昇し線維化が進みます。

以上より、ATXは肝線維化の初期段階から病態を把握でき、Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体よりも早期に上昇するという報告もあります。

また、画像診断で判別しにくい初期の線維化を判別できる血中マーカーとして有望視されています。

### ▼疾患との関連

肝線維化  
肝硬変

### ▼関連する主な検査項目

Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体  
ヒアルロン酸

### ▼検査要項

|          |                            |
|----------|----------------------------|
| 検査項目名    | オートタキシン                    |
| 項目コードNo. | 2987 1                     |
| 検体量      | 血清 0.5 mL                  |
| 容器       | S09 → A00 (X) ポリスピッツ       |
| 保存方法     | 冷蔵保存してください                 |
| 所要日数     | 2~4 日                      |
| 検査方法     | FEIA                       |
| 基準値      | 判定基準：下記参照<br>(mg/L)        |
| 検査実施料    | 194点<br>(「D007」血液化学検査「48」) |
| 判断料      | 144点 (※3：生化学的検査 (I) 判断料)   |
| 備考       | & 3                        |

[2987 1] オートタキシンの判定基準 (カットオフ値)  
(mg/L)

| 判定        | 男性    | 女性   |
|-----------|-------|------|
| ①肝線維化進展例※ | 0.910 | 1.27 |
| ②肝硬変      | 1.69  | 2.12 |

①より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。

②より高い検体は、肝硬変と判定します。

※C型肝炎治療ガイドライン (第5.4版) の「肝線維化F2以上」にあたります。

### ●参考文献

島本 怜史, 他: 東ソー研究・技術報告 第61巻: 99~103, 2017. (検査方法参考文献)  
池田 均, 他: SRL宝函39 (1): 4~11, 2018. (臨床的意義参考文献)